

◆ ISMCR'02 : 12th International Symposium on Measurement and Control in Robotics

関口大陸、稲見昌彦

東京大学

2002年6月20日より6月22日に、フランスのブルージュ (Bourges) で開催された ISMCR (International Symposium on Advanced Robot Systems and Virtual Reality)2002 の参加報告を行う。ISMCR は、計測工学に関連する国際学術組織である国際計測連合 (IMEKO: International Measurement Confederation) の計測とロボット制御に関する下部組織の IMEKO TC 17 が毎年主催している国際会議である。

ISMCR は、ロボットと VR に関する国際会議であり、12 回目のシンポジウムとなる今年のテーマは、"Towards Advanced Robot Systems and Virtual Reality" であった。会議は、4 件の Plenary Session と 60 件の一般発表が 16 の Session に分けられて行われた。



発表の様子

東京大学の館教授による最初の Plenary Session では、Telexistence に関する最新の研究成果が紹介された。初日の午後には、Instituto de Automatica Industrial - Madrid の Dr. M. Armada による 6 足歩行ロボットの Plenary Session が行われた。2 日目の最初の Plenary Session は、MIT の Toumi 教授による "Macro to Nano Robotics : Concepts and Applications" と題された講演であった。最後の Plenary Session では、宇宙で利用されているロボットに関する発表が NASA の Dr. Taqvi によって行われた。

一般発表では、ロボットと VR をテーマとしたシンポジウムということで、ロボットの制御方法に関する発表から、VR に関連した発表まで多岐にわたっていた。"Virtual Reality and Telexistence" 及び "Virtual Reality and Teleoperation" と題されたセッションでは、インターネット経由のテレオペレーションシステムに関する発表が多く行われた。中でも、会場となった ENSI de Bourges から行われた発表は、遠隔ロボットの遠隔操作と自律動作の切り替えに Network の QoS やタスクの複雑度を入力とする Fuzzy Rule を用いており、興味を引いた。他に VR に関係した発表として "Medical Robots" と題されたセッションは、新生児の頭蓋の力学的モデリングや内視鏡手術における Visual Servo に関する発表が行われていた。日本からは、我々を含めて 4 件の発表が行われた。会議全体では、ヨーロッパからの参加者が多く、普段、顔を合わせる機会が少ない東ヨーロッパからの参加者も多くみられた。

会議が行われたブルージュは、パリから列車で 2 時間ほど南に行った所にあり、中心部には中世からの古い建物が残る歴史的な町である。会場となった ENSI de Bourges は、ブルージュの中心部から車で数分の所に位置し、敷地や建物などが比較的小規模な学校であるが、1997 年に設立された新設校で会場は新しく大変きれいであった。



ENSI de Bourges

初日の夜に行われたレセプションは、"Salle du Duc Jean" と呼ばれる街の中心部に位置する歴史的建造物の中で行われ、フランスの民族楽器による演奏や道化によるジャグリングなどを楽しみながらの Dinner であった。ヨーロッパで開催される会議に参加するのは、初めてで

あったが、普段あまり機会がない東ヨーロッパなどからの参加者による発表を聞けるなど、ヨーロッパで開かれた学会ならではの経験をすることが出来た。



レセプションの様子

ISMCR'02 の Web サイト :

<http://www.ensi-bourges.fr/ismcr2002/>

◆ CHI2002 参加報告

伊藤雄一

大阪大学

アメリカ合衆国においておよそ 160 年の歴史を持つ双子都市ミネアポリス(ミネソタ州)にて、4月20日から25日までの日程で、世界最大級のヒューマンインタフェースに関する国際会議 CHI2002 (Conference on Human Factors in Computing Systems) が開催された。会議期間中は雪が舞い、気温も低く、非常に寒かったのであるが、それとは対照的に、参加者の発表や議論は非常に活発で熱い会議であった。今年の参加者は 1,600 名ほどらしく、昨年より若干減ったそうであるが、世界各地からの参加が見られ、CHI という国際会議が全世界的に見ても非常にメジャーであり、国際色豊かな会議であることを示していた。今回、私は CHI には初めて参加させていただいた。この場をお借りして参加報告をしたいと思う。

会議のメインとなる Papers のセッションでは、今年は 409 件の投稿から採録された 61 件の論文が発表された(採択率 14.9%)。Papers は、常に 2 セッションが並列で発表され、他にも Short Talks の 2 セッション、Panel や Demo、Posters などといったセッションも同時進行で開催されるなど、会議スケジュールの密度が非常に濃く、多くの人が自分の興味のある発表を目指して、セッション中にも会議室間を急ぎ足で行き来する場面が見られた。また、Posters セッションの会場では中央に休憩のためのスペースも設けられ、その場を利用して発表者と直に議論をする姿も多く見受けられた(写真1)。



写真1 Poster セッションの様子